

#With You

日本政府から賠償金が出たら、今も戦時下で性暴力の被害に遭っている女性たちに全部あげたい

1991年、韓国の金学順(キムハクスン)さんが『慰安婦』被害者の私がここにいる」と名乗り出て以降、韓国だけでなく、アジアの各国から多くの被害者たちが次々に名乗り出ました。長い間の沈黙を破り、立ちあがった姿は、まさに「#MeToo」運動だったと言えるのではないのでしょうか。そして、被害者たちを支援し、一日も早い解決を求める女性たちの「#WithYou」の大きな声が続いています。

日本軍「慰安婦」被害者である韓国のハルモニ達は世界各地をまわって問題を訴えてきました。そこで現在の性暴力被害者たちに出会い、お互いの苦しさを分かち合ってきました。そして金福童(キムボットン)、吉元玉(キルウォノク)ハルモニは「日本政府から賠償金が出たら、今も戦時下で性暴力の被害に遭っている女性たちに全部あげたい」と表明されたのです。この発言がきっかけになって、2012年3月8日、韓国挺身隊問題対策協議会(挺対協)は「ナビ(蝶)基金」を立ちあげました。ハルモニたちは募金を呼びかけ、以降、紛争下のコンゴで性暴力に遭った被害者たちや、ベトナム戦争で韓国兵の性暴力を受けた女性とその子どもたち、アジア各地の日本軍「慰安婦」被害者たちにも支援を続けています。

しかし、日本政府が今なお、日本軍「慰安婦」制度の加害責任を認めようとしていないだけでなく、女性記者へのセクハラに関して問題発言を繰り返すのは人権意識が全くないことを露わにしています。



2014年8月、ISに拉致、強制結婚させられ、命懸けで脱出した少数宗教ヤズディの女性
(玉本さん撮影)



キル・ウォノクハルモニはヤズディの女性に会うためにドイツを訪問し、女性を励まし、ナビ基金を渡した。左の写真の女性と同じ人 (挺対協撮影)

アクセス

京阪「天満橋」駅、
Osaka Metro(旧大阪市営地下鉄)
谷町線「天満橋」駅1番出入口から東へ約350m。
JR東西線「大阪城北詰」駅下車。
2番出口より土佐堀通り沿いに西へ約550m。

